

実践のまとめ（第3学年道徳科）

授業日 令和4年9月28日第5校時
上越市立東本町小学校 教諭 秋山 佳子

1 研究テーマ

他者の考えに触れながら、自分の考えを見つめ直す道徳授業 ～道徳的行為に関する体験的な学習を通して～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重要視されている。「特別の教科道徳（以下道徳）」においては、「道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」が大切にされている。また、指導方法の工夫として、問題解決的な学習や自我関与を伴う学習、道徳的行為に関する体験的な学習が挙げられ、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育むことが求められている。

しかし、自分自身の道徳の授業を振り返ると、道徳的価値の理解に留まり、自己を見つめたり物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方について深めたりする学習展開ができていなかった。また、児童からも「道徳の授業は何を話したらいいかわからない」という意見も聞かれ、授業の改善が必要であると感じた。今までの授業は、資料の読み取りに時間がかかり、考え、議論するところまで辿りつかなかったところにも課題を感じている。また、児童がすでに観念的に理解している道徳的価値の大切さをさらに学習する意義は、生活の中での実践への意欲や判断力を高めることだと考える。そこで、私は、道徳的行為に関する体験的な学習（本研究では、役割演技とする）を通して、自分の考えを見つめ直し、よりよく生きようとする心情を育み、道徳的行為に関する生活の中での実践への意欲を育むためにテーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 資料の提示を工夫する

資料を読んだだけでも、子どもたちは様々な考えをもつことができる。しかし、考え議論する道徳の授業を目指す上で、テーマを決めて焦点化して話し合うことが必要である。資料を読む前に、主題につながるテーマを投げ掛け、一人一人が考えをもって臨めるようにする。

また、状況理解が苦手な子も多いので、デジタル教科書の朗読を使用し、出てくる人物の関係が理解できるようにする。

② 役割演技を取り入れた授業展開

役割演技を行うことで、資料だけでなく目の前で道徳的行為に関する場面を見ることができ、より様々なことを考えたり、道徳的価値についての理解を深めたりすることができる。単に劇化した楽しさで終わるのではなく、観客側にも問うことで、自分の考えを再構築する機会を全員にもたせたい。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ・授業の中で、自分の考えをもつことができる（授業の発言やワークシートの記述）
- ・終末の振り返りで、実践への意欲の高まりや道徳的価値についての理解を記述している

3 指導計画**(1) 主題名**

かくさずに正直に (内容項目 A-2 正直、誠実)

(2) 教材名

「まどガラスと魚」 (小学どうとくはばたこう明日へ3年 教育出版)

(3) 主題設定の理由**① ねらいとする道徳的価値**

「正直、誠実」の学習内容は、「過ちを犯した時には素直に反省し、そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育むこと」である。過ちや失敗は誰にでも起こりうるが、嘘やごまかしで守ろうとしてしまうことがある。しかし、そうしたふるまいは、一時しのぎにしか過ぎず他者の信頼を失うだけでなく、自分自身の自信を失い後悔の念を抱いてしまい、そのままでは明るく生活することが困難である。正直であることを大切にし、他者や自分自身に対して誠実でいようとする心情を高めたい。

② 教材と児童

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。失敗をしてしまったとしても友達や担任に声を掛けられれば、正直に認め、謝ったり行動を修正したりしている。しかし、自分から過ちを犯してしまったことを素直に反省できる児童は少ない。

本教材は、過って人の家の窓ガラスを割ってしまうという話である。しかし、すぐには反省できず、なかなか謝りにいけないという展開である。思いがけず過ちを犯してしまうことは誰にでも起こりうることであり、同じような経験のある児童も少なくない。しかし、隠し続けることでは、何の解決にもならないだけでなく自責の念が残る。本時では、謝りに行く場面で役割演技を取り入れる。素直に反省し、謝罪をすることを実際に体験したり、目の前で見たりすることで、誠実に生きるよさを児童に実感的に理解させたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学 期	総合 ふれ合おう 考えよう 地域のやさしさ発見隊		ふれあい集会① (5月)
			ふれあい給食、ふれあい遊び (1学期中1回)
			e-スポ2022 (5月)
			ふれあいウォーク (6月)
			ふれあい集会② (7月)
2 学 期	総合 ふれ合おう 考えよう 地域のやさしさ発見隊	「まどガラスと魚」 (10月) A-2 親切・思いやり	ふれあい集会③ (10月) ふれあい給食 (10月)
3 学 期	総合 ふれ合おう 考えよう 地域のやさしさ発見隊		ふれあいラリー (1月)
			ふれあい集会④ (2月)
			ふれあい給食③ (3月)

(5) 本時のねらい

まどガラスを割ってしまった健一の気持ちや、謝りに行った場面の役割演技についての話し合いを通して、たとえ過ちを犯したとしても素直に反省し、正直に伝えようとする道徳的心情を育てる。

(6) 本時の展開 (令和4年9月28日実施)

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童(生徒)の反応	◇留意点
導入 10分	正直に生活するのはどうして大切なのだろう。		
	□資料の朗読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・うそはよくないから。 ・うそをつくると、まわりの人を傷付けてしまうから。 ○「健一」は正直な人だと思いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇正直に生活するよさについて今の考えを事前に書いておく。 ◇考える視点を示してから、朗読を流す。
展開 28分	□「健一」の行動から、正直について考える。 □正直に生活する大切さについて考える。	○「健一」は正直な人だと思いますか。 正直だ <ul style="list-style-type: none"> ・窓を割ってしまったことをお母さんに言ったから。 ・窓を割ったことを謝りに行ったから。 正直でない <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと黙っていたから。 ・割ったことを言わないのは、おじいさんにうそをついていることと同じだから。 ・自分にもうそをついている。 ○後で言うのではなく、すぐに言うのが大切なのはなぜでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の人がずっと嫌な気持ちでいるから。 ・自分の心ももやもやしたのが続いてしまうから。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「正直」か「正直でない」か自分の立場をはっきりさせて話し合わせる。 ◇すぐに言い出せなかった健一の気持ちに共感し、正直に行動する難しさについても考えさせる。 ◇正直に生活しないと、自分に誠実でないことをおさえる。
	正直に生活するよさって何だろう。		
	□謝りに行く場面の役割演技をして話し合う。	○おじいさんに謝りに行く場面を自由に演じて、正直に生活するよさを考えましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「黙っていてごめんなさい。」 ・正直に話した後は、なんだかすっきりしていい気持ちだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇演じる人だけでなく、観客側も考えられるように、どのように感じたか問う。 ◇正直に言ったときの気持ちを問う。
終末 7分	□今日の学習から考えたことを振り返る。	○今日の学習を通して、どんなことを考えましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・正直に生活するって難しいけれど、自分も周りもいい気持ちで生活できる。 ・黙っているといつまでも、気になったままになるから、すぐに謝る。 	◇正直に行動すると明るい生活をするができることを理解させる。

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・正直に行動することに対する他者の考えに触れ、正直に行動することのよさについて、多面的、多角的に考えることができているか。
- ・正直であることのよさを理解し、正直に行動することのよさについて、自分との関わりで考えることができているか。

② 評価の方法

- ・授業中の姿や発言
- ・ワークシートの記述

(8) 板書計画

正直な人って？

- ・うそをつかない人
- ・だれにでもうそを言わない人

正直に生活するのはどうして大切なのだろう。

- ・うそはよくない。
- ・人をきずつける。

まどガラスと魚

健一は正直な人？

正直だ

- ・お母さんに言った。
- ・あやまりにいった。

正直でない

- ・だまっていた。
- ・おじいさんにうそをついている。

怒られたらやだな。こわい。

すぐに言うのが大切なのは、なぜ？

- ・相手が嫌な気持ち。
- ・自分の気持ちももやもや。

正直に生活するのはどうして大切なのだろう。

- ・周りの人だけじゃなくて、自分の気持ちもよくなる。

ドキドキしたけど、言ってよかった。

割られたけど、言ってもらってよかった。

怒られたけど、すっきりした。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

児童の思考の変容が分かるような板書を心掛けた。授業前、対話時、授業の終末、それぞれの児童の考えが残るようにした。

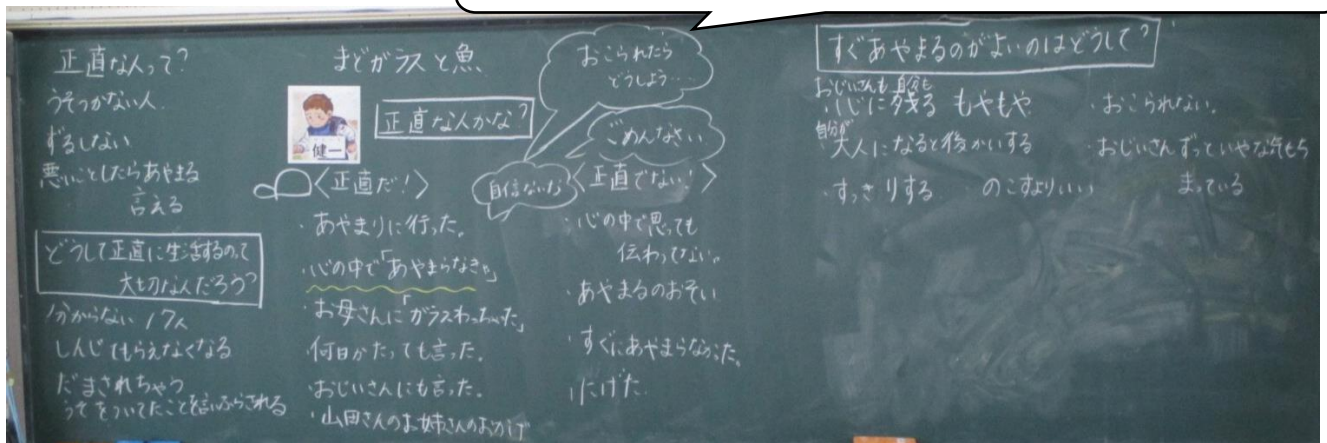


図1 授業後の板書

朝学習の時間を使って、教材文を読んだり対話をしたりする前の考えをワークシートに記入した。その後、教材文を1度読んでおいた。

表1 授業前の児童の考え

<p>正直な人とはどんな人ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しく、素直な人 ・うそをつかない人 ・本当のことを言う人 	<p>正直に生活するのはどうして大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か壊された人が悲しいままだから。
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・悪いことをしたらすぐに言う人 ・うそをついたことを「私です」と言える人 ・正直に謝る人 ・恥ずかしがらずに「遊びに入れて」と言える人 ・優しく、親切な人 ・じゃんけんで後出ししない人 ・誰にも秘密にしない人 ・きまりを守る人 ・けんかをしたときに「ごめんね。」と言える人 ・自分にうそをつかない人 ・分からない（3人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・信じてもらえなくなるから。 ・相手を傷つけるから。 ・みんなが言いふらしちゃうから。 ・みんなと仲良くなれるから。 ・気持ちがいいから。 ・悪い人たちから騙されないようにするため。 ・うそをつかれたら嫌だから、されて嫌なことはしない。 ・怒られるから。 ・分からない（17人）
---	--

本時では、導入として朝学習で記入していたワークシートの考えを共有し、「『健一』は正直な人でしょうか」と考える視点を示してから、デジタル教科書の朗読を聞かせた。

『健一』について、学級の7割の児童（児童A群）が「正直だ」と考え、1割程度の児童（児童B群）が「正直でない」と考えた。また、2割程度の児童（児童C群）は、「どちらとも言えない」という考えをもった。「正直だ」と考えた理由は、子どもたちの中から「謝ろうという気持ちをもっているから」や「後からでも謝りに行ったから」という考えが出てきた。しかし、「正直でない」や「どちらとも言えない」と考えた児童が「1度逃げているから」や「謝ろうと思うだけでは相手に伝わらないのではないか」という話を聞き、児童A群の正直に対する考えが変わり始めた。そして、謝りに行くまでの「健一」の気持ちを考え、正直に話すまでは、もやもやした気持ちであり、すぐに謝るのがなぜ大切なのかをグループで話し合った後、全体で共有した。子どもたちは、悪いという気持ちをもつだけでなく、早く相手に伝える大切さに気付いていた。

その後、謝りに行く場面で役割演技を行い、実際に正直な行動をするとどんな気持ちになるのかを話し合った。役割演技は、1回だけであったが、演者の表情の変化から正直に生活するよさを考えた児童もいた。

終末では、「今日の学習を通して、正直に生活することについて考えたこと」をワークシートに記入した。事前のワークシートで「分からない」と答えていた児童も、自分なりの考えを記すことができた。

表2 授業後の児童の考え

<p>今日の学習を通して、正直に生活することについて考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと謝らないと、おじいちゃんが死んでしまったら謝ることができない。 ・ものを壊したときは、「ごめんなさい。もうしないので許してください。」と言う。 ・すぐに謝らないと心にもやもやが残るのも嫌だし、やられた人も嫌だし自分も嫌って気持ちが残るからすぐに謝るのって大切だなということが分かった。 ・正直は、とても大切だと思った。怖くて言えなくても思い出したらすぐに行って言う。 ・やっぱり正直でいた方がいいと思いました。 ・正直に言わないともやもやが一生残るから、正直に生活することは大事だなと思った。 ・早く言えば、すぐに心の中が解決するから。早く言わないと心の中ですっぴりするから。早く言えばすっきりするから。早く言えば怒られないですむから。 ・信じてもらえなくなるから正直に言う。 ・心にもやもやが残るのは嫌だから正直に言う。 ・すぐに謝らないと、やられた方ももやもやす。 ・正直に生活することを頑張ろうと思った。なぜかというと、自分がやっぱりしなければよかったと思うから。謝りにいかないと、自分の心がもやもやすから。 ・相手の人が悲しんでいるから、正直に言うことは大切だと思った。実際にやってみて、「いいよ」と言われたらすごく嬉しくてすっきりした。

(2) 研究テーマについて（授業を通しての考察）

授業前「正直に生活するのが大切なのは、どうしてでしょう」の問いに、「分からない」

と答えた児童が17人（学級全体の53%）いた。他の教材でも、授業の始めに問うと、「分からない」と答えた児童がいた。何となく大切なことは分かるが、どうして大切なのかまでは言葉にできないという児童が多いのではないかと分析する。

本時では、「健一」の姿から「正直に生活すること」について考えた。始めに「自分は『健一』を正直か」と考えるときに、意見が分かれた。班や学級で話し合う活動を通して、自分が考える正直な姿とは別の考えにも触れることで、新しい考えをもったり、自分の考えを問い直したりして、正直の大切さについて考えを深めていく様子が見られた。

役割演技では、謝りに行く場面を演じた。1組だけであったが、実際に謝りに行ったときに怒られるのではなく、許してもらう場面を見た児童は、言葉に加え表情の変化からも、正直に言うよさを再認識することができた。ただ「ごめんなさい」と言うだけでなく、理由を付け加える大切さに気付いた児童もいた。表面的に正直に言った方がよいと想像もできるが、役割演技を行うことで、さらに道徳的価値について理解を深めることができた。

本時の終末では、「正直に生活すること」について全員が自分なりの考えを記すことができた。授業の中で発言した児童は全員ではなかったが、本時の学習で仲間話を聞くことで自分の考えを見つめ直すことができたのではないだろうか。児童の変容として、始めと考えが変わった児童の振り返りをいくつか紹介する。

表3 考えに変容がみられた児童の振り返り

	始め	終末
A児	分からない	すぐに謝らないとやられた方ももやもやする。
B児	分からない	正直に生活することを頑張ろうと思った。なぜかという、自分がやっぱりしなければよかったと思うから。謝りにいかないと、自分の心ももやもやするから。
C児	正直じゃなかったら、また悪いことをして続けてしまうから。	正直に謝ったら、自分も相手もすっきりする。正直に謝る方が、残すよりいいと思った。

(3) 今後の課題

4月に比べ、道徳の時間に進んで自分の考えを話したり書いたりする児童が増えた。また、全体の前では、話せない児童も班やペアであれば自信をもって自分の考えを伝えられる。しかし、子どもたちの意識として、「道徳は、あまり好きではない」と考えている児童が学級の半数程度いる。道徳の授業を行ったからと言って、すぐに行動や考え方が変わるとは限らない。児童自身もどこで道徳の学習が活きているのか分からないことも理由の一つではないだろうか。子どもたちが「道徳は役立っている」や「道徳が好きだ」と感じられる時間にすることが今後の課題である。教師が、本時のねらいをしっかりともち、そこへ導くことも重要であるが、子どもたちの自由な考えを聞き、教師も共に考えを深めていく授業スタイルも取り入れていきたい。

また、「道徳の授業で学習したから、学校生活での行動も変わるだろう」と期待してしまう部分もある。学習指導要領にも記されている通り、道徳教育は、学校のあらゆる教育活動を通じて行われるべきものである。道徳科の時間で行った学習が、学校生活のどの場面で生かされるのかをイメージして、日々の授業を行うことを大切にしていきたい。

参考・引用文献

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7 文部科学省